



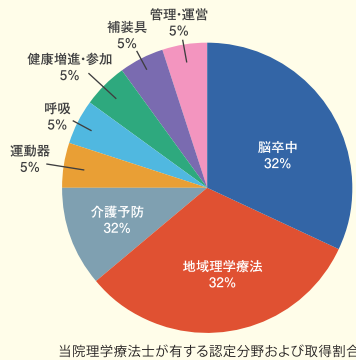
数字でみる錦海リハ

8割強が認定理学療法士を取得している

認定理学療法士は、より専門性を高め、質の高い理学療法を提供することを目的とした制度で、21分野に分類されています。本認定の全国取得割合は10.9%(2022年6月現在)の中、当院に所属する理学療法士の89.5%(実数)が計8分野(脳卒中、運動器、呼吸、地域理学療法、健康増進・参加、介護予防、補装具、管理・運営)の認定理学療法士試験に合格、取得しています(図)。

開院当初に入職した理学療法士の7割が現在も在籍している

2006年の開院当初に入職した理学療法士が現在も多く在籍しており入院患者から通所、訪問リハビリテーションを利用する方々へ安心できるより良いサービスの提供に努めています。



専門雑誌・書籍掲載

角田賢(医師・病院長)
特集重症患者受け入れ1割増の余波一現場から「気管切開患者の同時複数入院、認知症患者増えコロナ感染が本格化40%維持の大変さを実感」
回復期リハビリテーション第21巻第3号(通巻82号)、一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会、2022.10
角田賢(医師・病院長)
石川さんに育てていただいた20年間違いなく石川さんによって熱くされ、打たれ、成長した証言で辿るリハビリテーション医石川さんの軌跡、青海社、2023.2

外部講演

木村誉(理学療法士)／フレイルに関連した栄養と口の健康の評価
鳥谷香蓮(理学療法士)／フレイル予防に重要な栄養と口の健康
米子市フレイル予防事業(令和4年度法人プロジェクト)、米子市主催、2022.9.13、米子市
遠藤美紀(理学療法士・リハビリ技術部副主任)
フレイルと脱水
米子市フレイル予防事業(令和4年度法人プロジェクト)、米子市主催、2022.9.20、オンライン
野坂進之介(理学療法士)
フレイルおよび認知症予防のカギとなる「運動」について学ぶ
米子市フレイル予防事業(令和4年度法人プロジェクト)、米子市主催、2022.9.27、米子市
田村篤人(言語聴覚士)
ハネルディスカッション「ろう乳幼児教育相談と関係機関の連携」言語聴覚士について
第7回鳥取県ろう教育を考える集い、鳥取県聴覚障害者協会主催、2022.10.16、倉吉市
坂根嘉奈子(看護師・看護部主任)、真壁健太郎(介護福祉士)
「看護・介護10カ条」の実践
第44回看護介護研修会(初任者向けWeb研修)、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2022.10.14、オンライン
佐藤勝之(言語聴覚士)
いつまでもおいしく食べるために
後期高齢者口腔機能向上支援事業、米子市主催、2022.10.6、米子市
野坂進之介(理学療法士)
歩く力を鍛えてのぼそう健康寿命
米子市フレイル予防事業(令和4年度法人プロジェクト)、米子市主催、2022.10.11、米子市
門脇隆浩(言語聴覚士)
予防しましょう!オーラルフレイル
米子市フレイル予防事業(令和4年度法人プロジェクト)、米子市主催、2022.10.11、米子市
横木貴史(理学療法士)／フレイルに関連した栄養と口の健康の評価
鳥谷香蓮(理学療法士)／フレイル予防に重要な栄養と口の健康
米子市フレイル予防事業(令和4年度法人プロジェクト)、米子市主催、2022.10.12、米子市
足立睦未(理学療法士)
フレイルと脱水
米子市フレイル予防事業(令和4年度法人プロジェクト)、米子市主催、2022.10.19、米子市
吉田倫子(作業療法士)
社会復帰を目指した脳損傷後の自動車運転再開支援
2022年度第1回西部地区研修会、鳥取県社会福祉会主催、2022.10.22、オンライン
遠藤美紀(理学療法士・リハビリ技術部副主任)
転倒・転落に気を付けてフレイルを予防しよう
米子市フレイル予防事業(令和4年度法人プロジェクト)、米子市主催、2022.10.25、米子市
井後雅之(医師・名誉院長)／フレイルの予防について
足立睦未(理学療法士)／歩く力を鍛えてのぼそう健康寿命
米子市フレイル予防事業(令和4年度法人プロジェクト)、米子市主催、2022.11.2、米子市
佐藤勝之(言語聴覚士)
いつまでもおいしく食べるために
後期高齢者口腔機能向上支援事業、米子市主催、2022.11.10、米子市
野坂進之介(理学療法士)
フレイルおよび認知症予防のカギとなる「運動」について学ぶ
米子市フレイル予防事業(令和4年度法人プロジェクト)、米子市主催、2022.11.16、米子市
松本昌樹(理学療法士)
フレイルにつながる腰痛への対策
米子市フレイル予防事業(令和4年度法人プロジェクト)、米子市主催、2022.11.22、米子市
星山望(作業療法士)
在宅でのリハビリテーション
在宅医療推進のための看護師育成支援事業、鳥取大学主催、2022.11.28、米子市
濱崎喬之(言語聴覚士)
コミュニケーションについて考えてみよう
母子保健推進員・養育訪問支援員研修会、米子市主催、2022.11.29、米子市
遠藤美紀(理学療法士・リハビリ技術部副主任)
転倒・転落に気を付けてフレイルを予防しよう
米子市フレイル予防事業(令和4年度法人プロジェクト)、米子市主催、2022.11.30、米子市
木嶋恵美(管理栄養士)
管理栄養士とのチームアプローチについて
口から食べる支援を行える言語聴覚士となるために、山陰言語聴覚士協会主催、2022.12.4、米子市

佐藤勝之(言語聴覚士)
フォローアップ教室
後期高齢者口腔機能向上支援事業、米子市主催、2022.12.8、米子市
濱崎喬之(言語聴覚士)
食べる・話すにつながるお口の発達
母子保健推進員・養育訪問支援員研修会、米子市主催、2022.12.13、米子市
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)／臨床実習における管理・運営
川上祐司(作業療法士)／臨床実習指導方法論
令和4年度第1回鳥取県臨床実習指導者講習会、日本作業療法士協会主催、2022.12.17-18、オンライン
角田賢(病院長・医師)
全身管理とリスクマネジメント
2022年度回復期リハビリテーション看護師認定コース、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2022.12.20、オンライン
野坂進之介(理学療法士)
フレイルにつながる腰痛への対策
米子市フレイル予防事業(令和4年度法人プロジェクト)、米子市主催、2022.12.21、米子市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部次長)
フレイル予防教室の取り組みと効果検証の試み
第8回米子市フレイル予防協議会会議、米子市主催、2022.12.22、米子市
木嶋恵美(管理栄養士)
在宅における栄養管理の実践
在宅医療推進のための看護師育成支援事業、鳥取大学主催、2022.12.23、米子市
井後雅之(医師・名誉院長)、永岡直充(理学療法士)、吉田倫子、三島将太(作業療法士)
壮年脳出血後重度右片麻痺で運転、復職を達成した一例
三島将太(作業療法士)
生活期早期における脳卒中片麻痺上肢のリハビリテーション～motivationの高い症例に対するアプローチ～
第29回鳥取県西部脳卒中シームレス会議、鳥取県西部脳卒中シームレス会議主催、2023.2.8、オンライン
角田賢(医師・病院長)
錦海リハビリテーション病院における戦略的地域連携
第36回5法人合同研修会、大阪自強館・コムレ・成光苑・青山里会・こうほうえん主催、2023.2.17、米子市
角田賢(病院長・医師)
地域共生社会実現のために回復期は何をまずすべきか—地域リハビリテーションの中の回復期の使命—
回復期リハビリテーション病棟協会第41回研究大会in岡山、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2023.2.24-25、岡山県
角田賢(病院長・医師)
災害時におけるリハビリテーション支援について
第13回鳥取県訪問リハビリテーション実務者研修会・在宅リハ研修会、鳥取県リハビリテーション専門職連絡協議会(POST)主催、2023.2.26、オンライン
永島敬子(言語聴覚士)
ことごとからだのしくみと生活支援技術「食事に関連したことからだのしくみと自立に向けた介護」
介護職員初任者研修科(実習コース)、鳥取県主催、2023.3.15、米子市

学会発表

永岡直充(理学療法士)
自転車エルゴメータの実施が運動耐用能工とADL改善につながった重度COPDに肺病を合併した症例
第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会、2022.11.11-12、千葉県
田村篤人(言語聴覚士)
鳥取県失語症者支援センター開設について
リハビリテーション研究会inYONAGO、2022.11.26、米子市
上村順一(理学療法士)
介護予防訪問リハビリテーション利用者の12カ月超利用の継続の理由と利用狩猟に向けた対策
鳥谷香蓮(理学療法士)
地域在住高齢者へのフレイル予防教室における、理学療法士に加え、医師、薬剤師など多職種による実践
第9回日本地域理学療法学会学術大会、2022.12.3-4、オンライン
野坂進之介(理学療法士)
脳卒中片麻痺患者における二重課題歩行中の前頭前野の活性化
萩本慎也(理学療法士)
訪問リハビリ介護度別利用割合を調査し目標と利用期間をあらためた
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
感染症対策のため少人数で家庭訪問することの問題点に対する一考察
佐藤勝之(言語聴覚士)
当院の難聴者に対する補聴支援～訪問リハビリの立場から～
回復期リハビリテーション協会第41回研究大会in岡山、2023.2.24-25、岡山県

※氏名、職員の肩書は掲載、開催時点のものであり現在は変更があります。

診療方針：わたしたちは

回復的リハビリテーション医療と地域連携を通して
患者さんの社会参加を支援します。

錦海リハビリテーション病院
〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
TEL 0859-34-2300 [代表]
FAX 0859-34-2303



KINKAI NEWS

REHABILITATION
HOSPITAL



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行：社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院

TEL：0859-34-2300 [代表]
E-mail：kinkai-hp@kohoen.jp
URL：https://www.kinkai-rehab.jp

2023
VOL. 17

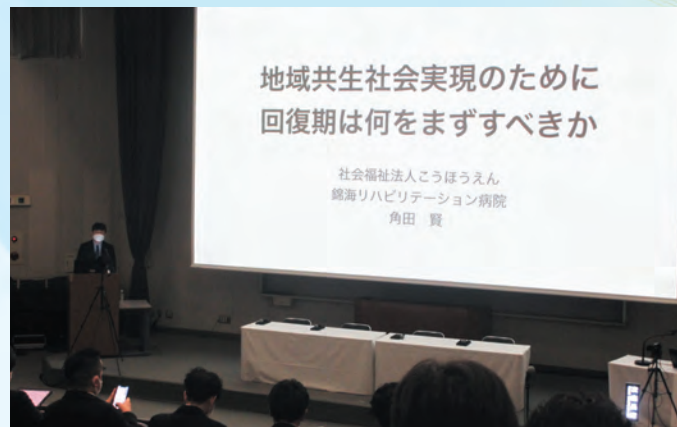
SPECIAL 最前線 1

One TeamからOur Teamへ

「One」から「Our」へ、さらなる進化を目指していく

2019年、日本中を沸かせたラグビーワールドカップから4年が経ち、今年はフランスで開催となります。この間にコロナ禍が世界を大混乱に陥れました。東京オリンピックは1年延期の上、無観客となりましたが、昨年のサッカーワールドカップ、今春のワールドベースボールクラシックと日本チームの活躍が続き、観客席も大きく盛り上がっています。

前回大会、ラグビー日本代表チームのスローガンは「One Team」でした。他のスポーツの国代表と違い、ラグビーは、他の国籍を持つ選手も規定を満たせば日本代表になれるのが大きな特徴です。前回大会でもニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ、トンガ、サモア、韓国出身の選手が日本代表として勝利に貢献しました。出身地が違えば、生活習慣も価値観も何もかもが違います。異なるルーツを持つ個性豊かな選手が目撃達成のためにひとつになる、これが「One Team」という言葉に込められていたのだらうと考えています。そして初の決勝トーナメント進出という結果に繋がりました。



回復期リハビリテーション病棟協会 第41回 研究大会in岡山での角田賢 病院長の教育講演
「地域共生社会実現のために回復期は何をまずすべきか～地域リハビリテーションの中の回復期の使命～」

今年のラグビーワールドカップへ向けた新たなスローガンは「Our Team」です。OneからOurへ、単にひとつにまとまるだけでなく、全員が当事者意識をもち、全員が責任を持って、それぞれの役割を果たすチームへ、さらなる進化を目指していくという意志が示されています。



当院による地域でのリハビリテーション活動「米子市フレイル予防事業フレッシュアップスクール」

地域共生社会を実現していくためにも「Our」「自分たちの」という意識が必要

回復期リハビリテーション病棟のチーム医療でも、さらに地域でのリハビリテーション活動や高齢化がピークを迎える2040年へ向けて国が取り組んでいる地域共生社会を実現していくためにもこのOur、「自分たちの」という意識が必要ではないでしょうか。様々なマニュアルや院内規定、医療保険制度や介護保険制度などいろいろな制約があり、やるべきことがすでに決定していることも少なくありません。しかし誰から与えられるものではなく、上からの指示でもなく、自らが参画し、責任を持ち、実行していくことで初めてより良いチームを作り上げることができる筈です。「自分たちの病院」、「自分たちの地域」を進化させるために「Our Team」として皆で力を発揮していきたい今日のごろです。

社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
病院長 角田 賢

SPECIAL 最前線 2

回復期リハビリテーション病棟協会 第41回研究大会in岡山に参加しました

2023年2月24日(金)～25日(土)の2日間、川崎医科大学リハビリテーション医学教授花山耕三先生を大会長に「回復期リハビリテーション病棟協会第41回研究大会in岡山」が、川崎医療福祉大学にてハイブリッド開催されました。当院からも久しぶりに10名を超える職員が会場参加し、日々の研究成果を発表するなどしました。

当日は多くの教育講演、シンポジウム、職種別の委員会企画、500題を超える一般演題発表などがあり、当院からも4題の一般演題発表、教育講演として角田賢病院長が「地域共生社会実現のために回復期は何をまずすべきか～地域リハビリテーションの中の回復期の使命～」のタイトルで講演しました。



研究発表する野坂進之介 理学療法士

今回の研究大会テーマは「踏み出そう次のステージへ」。感染対策の下、会場参加者数も以前の姿を取り戻しつつあり、次のステージへ踏み出す足がかりとしても大変意義のある大会であったと感じました。

今回の研究大会テーマは「踏み出そう次のステージへ」。感染対策の下、会場参加者数も以前の姿を取り戻しつつあり、次のステージへ踏み出す足がかりとしても大変意義のある大会であったと感じました。

全国の回復期リハビリテーション病棟病床数が90,000床を超えるなか、一同に集う回復期リハビリテーション病棟協会研究大会の役割は益々重要になってくるものと思います。次回の第42回研究大会は、10月開催の「リハビリテーション・ケア合同研究大会広島2023」、3月開催の「回復期リハビリテーション病棟協会第43回研究大会in熊本」と続きます。引き続きこの有意義な研鑽と交流の場に参加し、より一層のリハビリテーション医療における質の向上を図っていきたいと考えております。日頃の実践と研究成果をまとめ、次回の広島大会に向けて準備していきます。



第41回研究大会in 岡山に参加した当院職員

SPECIAL 最前線 3

リハビリテーション技術部の紹介 理学療法士のお仕事

『理学療法』は運動等を介して 日常生活動作の改善をはかります

病氣、けがから立ち上がる、歩くなどが不自由になると、トイレに行けない、外出ができないなど日常生活に不便が生じます。運動や体操を通して改善を図り、障がいがあっても住み慣れた地域で生活出来ることを目指します。

当院理学療法部門の特徴

回復期、通所および訪問リハビリテーションへ計19名の理学療法士が配属され、急性期直後の入院生活から退院後の在宅生活を支援しています。以下に挙げる主に4つの項目に注力し(4軸運営)、工夫点の創出に努めています。



臨床

短時間を利用して行う「現場(ライブ)」で行う症例検討会、立位が十分とれない方の歩行練習など挑戦的な理学療法を支援する「チャレンジタイム」など。

教育

同一症例に対して担当と別の理学療法士による理学療法場面を動画撮影し、両者の違いから学ぶ「2画面同時再生ビデオ症例検討会」など。



地域活動

地域にお住まいの方々に對して講義や運動を通じて健康リテラシーを高める「アクティブシニア健康教室」など。



研究

日々の臨床の中で感じる疑問を検討。2006年の開院初年よりはじめ120回を超えて現在も続く「部署内発表会」など。



TOPICS 01

第36回 5法人合同研修会

令和5年2月17日(金)～18日(土)の2日間、皆生グランドホテル天水にて「第36回5法人合同研修会」を開催しました。5法人合同研修会は平成11年11月に発足し、大阪自彊館(大阪府)、クムレ(岡山県)、成光苑(大阪府)、青山里会(三重県)、こうほうえんの5法人が、「会員相互研鑽と社会福祉法人としての発信源的活動を展開すること」を目的として、年2回の合同研修会で学びと親睦を深めています。

今回の合同研修会はこうほうえんが担当し、法人内の様々な事業所による最新の実践を発表し、当院からも角田賢病院長が「錦海リハビリテーションにおける戦略的地域連携」の演題で報告させていただきました。



5法人合同研修会場の様子
社会福祉法人こうほうえん 廣江晃 理事長の挨拶

TOPICS 03

コグニバイク(二重課題エルゴメーター) を導入しました

この度、当院ではコグニバイク新機種(CB03)を西日本で初めて導入しました。コグニバイクは記憶や注意力などの認知課題とペダルを漕ぐ運動を組み合わせた二重課題トレーニングにより身体機能だけでなく脳の活動を高めることを目的としています。コグニバイクはひとりひとりに合わせたトレーニングプログラムを提供し、結果はグラフ等で視覚化し表示されます。毎回のトレーニング記録が保存されるため、患者さんに経時的な変化も説明することができます。二重課題トレーニングは転倒発生率の低下(Pang et al., 2018)、認知機能の向上、脳萎縮の進行抑制(Suzuki et al., 2013)など様々な有効性が報告されており、効果的にトレーニングが行えます。



コグニバイクを使用したトレーニング

TOPICS 02

第27回こうほうえん研究発表会 (ハイブリッド開催)

令和5年3月25日(土)、米子コンベンションセンターBiGSHiP小ホール・国際会議室・第7会議室を主会場に、オンライン参加も可能なハイブリッド形式で開催しました。健康経営の認証といった中期目標の成果報告、64演題の一般演題発表など、今年度も多くの実践報告について意見を交わしました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降、オンライン主体であった研究発表大会が、ポストコロナを見据えた今回の大会運営によって、県西部はもちろん、東京や鳥取県東部の事業所、新入社員58名も現地に集うことができ、改めてこうほうえん職員の絆を実感できる機会にもなりました。



社会福祉法人こうほうえん、在宅事業本部・リハビリテーション統括本部 今田健 次長による「7職種によるフレイル予防事業の取り組みとその数値化・可視化の施行」報告

TOPICS 04

バレンタインスペシャルメニューを 提供しました

令和5年2月14日(火)に、バレンタインに合わせ、調理師が考案したスペシャルメニューを提供しました。メニューはビーフシチュー、冬野菜のテリーヌ(白菜・大根・いんげん・金時人参・ヤングコーン)、スモークサーモンサラダ、きのこピラフ、コンソメスープ、ガトーショコラです。患者さんより、「おいしかった」「幸せな気持ちになった」などのうれしいご意見を多く頂きました。調理師考案のスペシャルメニューは年2回ほど企画しています。今後もこのような取り組みを継続し、食を通じて患者さんに喜んでいただけるよう努めていきます。



バレンタインに合わせたスペシャルメニュー

以上、主な取り組みを紹介しました。令和2年度からは米子市のフレイル予防事業にも参画し、よりよい地域生活のお役に立てるよう日々精進を重ねています。